

- ▶ 特別寄稿：もっと知りたい「フォント」の話
 ▶ フォント あ・ら・かると：2019年度新書体
 ▶ もりもじ かわら版：Adobe製品の「困った!」は利用者同士で解決の道を探ろう
 ▶ お知らせ

今月の
フォント

- 本文：ゴシックMB101 (L)
 ● 見出し：じゅん 34

www.morisawa.co.jp/about/morisawa-news

特別寄稿 もっと知りたい「フォント」の話

多くみなさまに日々お使いいただいているフォントは、さまざまなシーンでその趣向に合わせたフォントが選ばれていることと思います。そこで今回は、モリスワのフォントをより身近に感じていただくために、フォントのつくり手のつぶやきをご紹介します。

基礎知識

◆ 文字盤の時代からデジタル化 ……………

写真植字機の文字盤の文字数は約6,000字、その内約5,000字が常用漢字主体の漢字でした。1980年代後半にはアナログからフォント化が始まり、それに際して文字数の拡張は、5,000字程度の漢字が「A-J1-3=7,014字、A-J1-4=9,138字、A-J1-6=14,663字」、非漢字は1,000字程度から「A-J1-3=2,340字、A-J1-4=6,306字、A-J1-6=8,395字」と増えました。

◆ 文字数の拡張 ……………

フォント化においては、まず最初に既存の文字の精査で、字体・字形の間違いがないか、部首での違いはどうか、その他濃度などのデザイン全般を見直し、確認してから拡張を始めました。拡張といっても、文字数が揃えば良いだけではなく、それぞれ書体の特徴のデザインが一致していなければ書体としての統一性が損なわれてしまいます。しかも分担作業も多く、文字を書く人、確認する人、デジタルに入力する人、デザインを調整する人など、多くの作業員によるチームワークで作成されました。

◆ ファミリー化の展開 ……………

A-J1-6など横軸への文字数の拡張に加え、縦軸のファミリー展開がアナログ時代より容易になったことで、まず基本書体といわれる明朝体・ゴシック体などはファミリー化が一般的になり、その後、デザイン書体でもファミリー化が進みました。ここでも、ウエイトの細い書体から太い書体まで、ただ太くしただけでなく、デザインの特徴を統一させることに苦心しました。またデータ補間の中間書体の中にはデザインが気にかかることも多くあり、作成後のファミリー段検査にも細心の注意が必要でした。

一つひとつの書体に思いを込めて

◆ UD新ゴ・UD新ゴNT ……………

【デザインのきっかけ】

2006年に国連で採択された「障害者の権利に関する条約」で「ユニバーサルデザイン」の基本的な考え方が示され、フォントの分野でもUD(ユニバーサルデザイン)フォントとしての開発を求められることとなり、同年に着手しました。

【デザイン・制作の苦労話】

UDフォントへの対応として、元々読みやすく、見やすく設計してきたモリスワフォントで、さらに「読みやすさ」「見やすさ」をアピールするためには、どのようにしてデザインするかという点に最も苦心しました。その結果、かなの濁点、半濁点を大きくし、小さい文字でも読み間違えが無いよう
 新ゴ
 に変更、また「り」や「な」などのエレメントのシンプル化と
 UD新ゴ
 「ろ」や「る」などの空間を広くするなど工夫をしました。

その際、全角枠からの濁点、半濁点のはみ出しを少なくするためかなの字面サイズをやや小さくし、できるだけ全角枠からはみ出さないように調整する必要がありました。それでも出てしまうかなについては、各ウエイトで、すべての漢字とベタ組みにして、接触する濁音、半濁音の調整を行いました。

漢字は既存の新ゴを元に修正することで、よりスッキリとしたデザインで視認性が良くなるように変更、とくに「口」関係の足(下への出っ張り)部分を無くす形状にした時は、文字のバランスを崩さないための調整が大変でした。

◆ 丸フォーク ……………

【デザインのきっかけ】

現在の丸フォークの元となるデザインは1970年に文字盤書体M70Dとして完成、2004年の文字盤書体M70のデジタル化に伴い、翌年の2005年にM70Dもデジタル化され、ウエイトが追加されたファミリー書体としてリリースされました。

【デザイン・制作の苦労話】

文字盤書体M70Dをいまのウエイトに当てはめるとRに近く、ウエイト展開をする際のHのエレメントで幅の広い点などの形について試行錯誤がなされました。このような形はデザイナーのセンスが最も反映される部分であり、技術とセンスが無ければ、丸フォーク
 無
 になる典型的な例です。

かな書体のお話

◆ 丸ツディ ……………

【デザインのきっかけ】

個性的な新丸ゴのかなに対し、スタンダードな別かなの要望があり試作を開始しました。

【デザイン・制作の苦労話】

2001年から新丸ゴの別かなについて試作を行いましたが、思うようなデザインにならずに3年が経過していました。その間、先にネオツディを完成させ、ネオツディKSをベースにしたところ、これまでじっくり来なかったデザインが思いの外マッチし、新丸ゴの別かなとして丸ツディが完成に至りました。

この丸ツディができた事により、2008年作成のUD新丸ゴかなの展開に繋がっていきます。

◆ ネオツディ KL・KS ……………

【デザインのきっかけ】

フォントユーザへのアンケート調査がきっかけ

で、人気のあったツデイ L/R/M/Bのリニューアルが決定しました。

ツデイ書体の特徴として、当時の詰め打ち全盛の時代にベタ組みでも詰め打ちのような対応ができる書体という事で、字面が極力均等に見えるようにデザインされた書体といえます。

当初の提案では漢字も含めてリニューアルする内容でしたが、漢字はツデイファミリーの思想を受け継ぐ新ゴファミリーを使用し、かなと欧文記号のみをリニューアル作成する事で方向性が決定しました。

【デザイン・制作の苦労話】

当初は文字盤のツデイのかなをリニューアルする方向で進めていましたが、文字盤のツデイ漢字と組み合わせる時に魅力があるデザインになっており、新ゴの漢字と合わせるために部分的にかなの変更を試みたものの、サイズや太みの揃った新ゴの漢字と組み合わせると、デザインが上手くまとまらず、かなのみを別の漢字に組み合わせることの難しさを改めて思い知らされました。その結果、ツデイは参考の扱いとし、新たに新ゴの別かなとして取り組む必要に迫られた事は大変な苦労となりました。

大がなの作成時に、でき得る限り大きくする事を目標にした事で、濁点・半濁点の全角枠からのみ出しを最小限に止める調整に苦心し、この時は、大がな・小がなを同時に作成して、新ゴ漢字と文章組みした見本を用いたテスト・回覧を繰り返してデザインを固めました。

◆ゴシックMB101KS (小がな) 【デザインのきっかけ】

2006年当時、本文用ゴシック開発の要請があり、試作から始めて2008年に完成に至りました。

文字盤当時MB101は、見出し用書体としてつくられており、ベタ組みでも綺麗に組めるように全体的に字面サイズを大きめに作成してあるため、漢字とかなのサイズをどのように変更するかが課題でした。かなのデザインで書体全体の持つイメージが形成される事から、漢字のサイズはそのまま、ウエイトL/R/Mのかなと記号のみを本文用に変更する事を前提とした説得性のある見本の作成に苦心しました。

漢字は既存のものを使用するので、かなを縮小した際に太みのイメージが変化しないように工夫し、濁点や半濁点が清音の縮小に伴って小さくならないように、また拗促音のサイズと太さにも違和感が出ないように、専用の出力見本を作成して細心の調整を行いました。

◆アンチックANファミリー 【デザインのきっかけ】

アンチック書体は文字盤時代にはかな文字盤として存在していましたが、当時、組合せに推奨

されていた漢字は、AN1はB101、AN2はMB1などでした。

文字盤時代のアンチック書体のデジタル化に伴い、リニューアルが検討され、2001年に試作を開始し、BBB・B101・MB31・MB101ファミリー用の11書体を作成。

【デザイン・制作の苦労話】

混植するゴシック体漢字に対して、太みや字面の整合性をマッチさせることに苦心しました。そもそも明朝体系かなのアンチックとゴシック体漢字の混植は、太みのイメージに不自然さが発生し、通常の組み見本を作成してもなかなかOKにならないのが現実でした。そこで実際にコミックの紙面を借用して、吹き出しに当てはめた見本を作成したところ、文句なしに採用が決定となりました。

アンチック体そのものは明朝体ですが、ゴシック体と組み合わせるため、ウエイト名はゴシック体と同じにしています。

◆丸アンチック 【デザインのきっかけ】

新丸ゴの別かなとして、オールドスタイルを提案し、2005年に試作、翌年完成。

【デザイン・制作の苦労話】

新丸ゴの漢字にオールドの字形を合わせることに無理がありました。丸ツデイのエレメントとアンチック体の骨格を融合させ、字面サイズは新丸ゴと比べるとかなり小さく見えるものの、オールドの雰囲気を出すために漢字との違和感を感じない程度に小さめに設定しています。字形がオールドなので、懐は狭くデザインしてあります。

◆ららぽっぷ 【デザインのきっかけ】

新丸ゴの別かなとして、POP系スタイルのかなを提案し、試作を開始。新丸ゴの漢字と組み合わせる使用できるようにウエイト展開を行い、ファミリー書体として2007年に完成しました。

【デザイン・制作の苦労話】

全角枠にキッチリと納まっている新丸ゴの漢字に脱力系のかなを合わせる事はデザイン的にかなり苦労する点がありました。字面サイズなどをやや大きめに設定し、漢字との違和感が少しでも緩和されるように工夫しています。

これまでも文字盤書体で丸文字系のかな書体はありましたが、L～Uまでのウエイトを揃えることで新丸ゴ漢字との共用を図り、また可読性を損なわないように崩し方に工夫をしながら試作を重ねて完成に至りました。

◆欧体楷書 藤かな 【デザインのきっかけ】

2006年に欧体楷書の別かな作成プロジェクトがスタート、2007年に完成しました。

【デザイン・制作の苦労話】

毛筆系の書体であり、原図作成をどのようにすべきか検討したものの、結局は欧体楷書のかなのエレメントを使用し、楷書体と行書体の骨格を参考にデジタルデータでの作成に終始しました。別かなとしてどのようなイメージを反映させるか悩んだ末に、「はんなりとした上品な雰囲気」に焦点を定めデザインを試みています。

極めつけは「グラデーションファミリー」

◆黎^{れい}ミン(グラデーションファミリー) 【デザインのきっかけ】

主力書体としての明朝体ファミリーが、リュウミンファミリーだけであったことと、横線を細く作成していたこれまでの明朝体に対して、横線が太くゴシック体と組んでも違和感のない明朝体の要望が上っていたことが起因となり、新しい明朝体ファミリーの要請がありました。

【デザイン・制作の苦労話】

もともとはリュウミンの懐を広くしたようなデザインで、そのデータを元にエレメントの形状をさまざまに変化させ試作を繰り返しましたが、どうしてもリュウミンのような完成度を越える事が困難でした。2004年には、漢字担当グループとかな・記号担当グループにデザインの開発を割り振り、当時の代表的なゴシック体であるMB101ファミリーや、新ゴファミリーと同じ紙面に並べて表示しても対等なイメージで横組みにも対応できる明朝体を目指し考案を重ねました。

2007年にデザインのベースが完成し、当時としては画期的なグラデーションファミリーとしての展開がこの時に決定しています。

グラデーションファミリーは、小サイズの印字でも問題がなく、細いものから太いものまで自由に選択できるフォントという方向性で、作業の効率とデザインの統一感に苦心しながら、8ウエイトと横線の太み5段階の40書体を試作し、そのうちデザインが破綻する6書体を割愛して、34書体を完成させました。



▶ 今月のフォントあら・かるとは、拡大版として、2019年度モリスワからリリースする新書体をご紹介します。本年度は、見出し利用で効果を発揮する和文書体に加え、令和合字やカーニング情報を追加し、欧文をリニューアルしたAP版書体や多言語の明朝体ファミリーが追加されます。

筆や手書きの風合いを残すデザイン書体

「剣閃(けんせん)」は、見出し用に作成された骨太で力強い印象を持つ筆書系デザイン書体です。躍動感のある筆使いと、しっかりとした硬質な黒みが特徴です。「小琴 京かな(こきん きょうかな)」「小琴 遊かな(こきん ゆうかな)」は力の抜けたやさしい風合いの筆書系デザイン書体です。始筆・収筆部に丸みを持たせた漢字に、「小琴 京かな」ではゆったりとした運筆で丁寧に書かれたかなを、「小琴 遊かな」では軽やかで親しみやすい表情のかなを合わせています。

レトロさを演出する秀英にじみシリーズの新書体

「秀英角ゴシック金」「秀英角ゴシック銀」をベースに、活版印刷による紙面上でのインクのにじみを再現した書体です。漢字は秀英明朝の

のびやかな骨格を元に設計されており、「秀英にじみ角ゴシック金」のかなは大ぶりで手書き字形にも近い親しみやすさを、「秀英にじみ角ゴシック銀」のかなはフトコロのしまったクラシックな印象を持っています。線の揺らぎや交差部分のにじみが加わることで、アナログ感のある落ち着いた雰囲気を演出します。

和文・欧文ペアカーニングと最新のIVSに対応したAP版書体

「UD新ゴ(AP版)」は、環境や文字サイズを問わず、つぶれにくく判りやすいデザインを採用したユニバーサルデザイン書体です。欧文は「Clarimo UD PE」をベースに和文と調和するように調整しており、高品質な混植、併記を可能にしています。「UD新ゴNT(AP版)」は、「UD新ゴ(AP版)」にシンプルながらも親しみやすいかな書体「ネオツデ」をベースにしたかなを合わせたユニバーサルデザイン書体です。

和文のデザインをベースにした多言語書体

和文書体「UD黎(れい)ミン」のデザインをベースに開発された明朝体のシリーズです。「UD黎ミン 簡体字」、「UD黎ミン 繁体字」とも

に横画にしっかりと太みを持たせ、使いやすい太さに設計しています。「UD黎ミン」や「UD黎ミン ハングル」と合わせて使用することで、日本語・簡体中文・繁体中文・ハングルを併記する際にも統一したイメージの展開が可能です。

レトロモダンなデザイン書体

「赤のアリス」は、タイプバンクブランドのかな書体「TBかな 赤のアリス」に漢字を追加したデザイン書体です。平筆由来の西洋風ストロークとクリアで柔らかなエレメント・骨格が特徴です。見出しやキャプションなどで可愛らしさを演出したい際に最適の書体です。

なお、本年度よりリリースされるモリスワフォントには、令和合字が搭載されています。

これらの書体は今秋以降、対象製品を通じてご利用いただけます。今後、各書体の詳細やリリース日は以下の新書体特設ページで随時ご案内します。

www.morisawa.co.jp/topic/upg2019

時をかける
文字が咲く
あ安 A

▲剣閃(けんせん)

時をかける
文字が咲く
あ安 A

▲小琴 京かな(こきん きょうかな)

時をかける
文字が咲く
あ安 A

▲小琴 遊かな(こきん ゆうかな)

時をかける
文字が咲く
あ安 A

▲秀英にじみ角ゴシック金

時をかける
文字が咲く
あ安 A

▲秀英にじみ角ゴシック銀

時をかける
文字が咲く
あ安 A

▲赤のアリス

新たな時代を
Smart に
あ安 A

▲UD新ゴ(AP版)

新たな時代を
Smart に
あ安 A

▲UD新ゴNT(AP版)

尽情畅游日本之旅
尽情畅游日本之旅
尽情畅游日本之旅

▲UD黎(れい)ミン 簡体字

盡情暢遊日本之旅
盡情暢遊日本之旅
盡情暢遊日本之旅

▲UD黎(れい)ミン 繁体字

Adobe製品の「困った!」は
利用者同士で解決の道を探ろう

今回は不具合や要望の報告先として「UserVoice」を紹介しましたが、ここでは同時に「コミュニティフォーラムへの投稿」についても挙げさせていただきます。今回はそちらの「コミュニティフォーラム」についてご紹介いたします。

Adobe製品を利用する際には、操作や機能でわからないことが出てくる場合もあると思います。もちろん、ご自身や組織内で解決を図るようなケースもありますが、それでも解消しないこともあるでしょう。そのときにAdobeの問合せ窓口を利用して解決する方法に加え、ユーザー同士で解決を模索できる場として用意されているのが、Adobeが公式に用意しているインターネット掲示板形式のコミュニティです。

フォーラムでは英語圏向けのコミュニティがメインですが、それとは別に、フランス語、アラビア語などの5言語向けに提供されています。ジャパンフォーラムは英語向けに次ぐ規模で提供されており、アプリケーションや種類などのジャンルごとにコミュニティが用意されていますので、内

容に合わせて投稿するのがいいでしょう。フォーラムの場合は原則として24時間365日稼働しているため、問合せ窓口の開いていない時間帯であっても解決を図れる可能性が高まるのがメリットといえます。業務で急ぎの場合もあり、早期に解決の糸口を掴める場があるのは大きな助けになるところです。

回答者についてはAdobeのスタッフが行うこともありますが、多くの場合は質問者と同じ利用者がボランティアとして回答をしていることが大半です。中にはAdobeから認定を受けた、MVPやACPなどのコミュニティプロフェッショナルが回答を行うこともあります。逆に、誰でも質問・回答のできる場でもあり、ユーザー間の交流の場でもあることから、「コミュニティフォーラム」という名がついているともいえます。

このような場をうまく活用することで、問題の解決を図ったり、知識や情報を得る場として利用することも考えてみましょう。



① ジャパンフォーラムへ直接アクセスするには forums.adobe.com/community/international_forums/japanese をブックマークしておくのが簡単だ。forums.adobe.comからもアクセスできるが、右下にある「International Forums」の「日本語」からアクセスが必要になる



② 主要なコミュニティはアイコンで用意され、クリックすると投稿されているリストなどが表示される。回答は返信ボタンを利用し、質問にぶら下がる形で登録される。返信が正しい内容であれば正解マークを付与しよう。なおフォーラムはログインしなくても閲覧はできる、公開された掲示板なので、投稿する文書や内容については注意しておきたい



③ フォーラムで質問を投げかける場合はできるだけ詳細な情報があるのがいいだろう。フォーラムの利用方法に関するページが forums.adobe.com/docs/DOC-9232 に用意されているので、まずは参考にしてみよう。あわせて、本ページ末に用意されているガイドラインについても目を通しておくのがいいだろう

お知らせ

ご愛読いただいてまいりました「モリサワニュース」は今号をもって最終号とさせていただきます。フォントをはじめ、さまざまな製品情報、DTPに関する最新情報の掲載を常に心がけてまいりましたが、読者のみなさまにとって価値ある情報はお届けできたでしょうか。ご支援いただきましたみなさま方に心より感謝とお礼を申し上げます。今後もモリサワからの情報発信にご期待ください。



読者のみなさまと私どもを繋ぐ「モリサワニュース」は、今回の第173号にて最終号となりました。2005年の創刊以来14年余りの期間、編集長を務めさせていただけたことは、ひとえにご講読いただいたみなさまのおかげと感謝しております。時には、月初の1日朝一番に公開ができておらず、問合せを受けたこともあり、また各地でみなさまとお会いし、記事の話題に花を咲かせたこともありました。すべてがいまでは良い思い出でございます。

最終号までおつきあいいただきまして、本当にありがとうございました。

✉ E-mail: m-news@morisawa.co.jp

発行:株式会社モリサワ 企画・編集:ユーザーサポート部

※記載されている会社名・商品名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

モリサワ www.morisawa.co.jp

株式会社モリサワ

本社 〒556-0012 大阪市浪速区敷津東2-6-25 Tel:06-6649-2151
東京本社 〒162-0822 東京都新宿区下宮比町2-27 Tel:03-3267-1231
仙台支店 〒984-0051 仙台市若林区新寺1-3-8 Tel:022-296-0421
名古屋支店 〒460-0002 名古屋市中区丸の内1-5-10 Tel:052-201-2341
札幌営業所 〒001-0010 札幌市北区北十条西2-6 サウスシティ2F Tel:011-700-0112
福岡営業所 〒812-0013 福岡市博多区博多駅東1-3-25 Tel:092-411-5875
鹿児島営業所 〒890-0051 鹿児島市高麗町11-3 下田ビル2F Tel:099-252-2255